

令和5年度 幼保連携型認定こども園めばえ 教育・保育要領に基づく自己評価

作成日 令和6年4月30日

領域別評価のまとめ【第2章】

第2章 ねらい及び内容並びに配慮事項	項目数	総数	平均
第2節 乳児期の園児の保育に関するねらい及び内容	15	63	4.2
1 健やかに伸び伸びと育つ	5	20	4
一人ひとりと丁寧に関わることで欲求を満たしながら生活することができた。また、安全面に配慮しながら体を動かす遊びを楽しむことができた。			
2 身近な人と気持ちが通じ合う	5	20	4
異年齢児と交流をもったり、様々な職員と接してあいさつを交わすなどすることにより親しみを感じて過ごすことができた。			
3 身近なものに関わり感性が育つ	5	23	4.6
玩具などすぐに手に取れるように環境を整えることでそれぞれ主体的に行動して遊びを楽しむことができた。			
第3節 満1歳児以上満3歳未満の園児の保育に関するねらい及び内容	32	158	4.9
1 健康	7	34	4.9
戸外では毎日かけっこをする習慣が身につく、活発に遊ぶことができた。戸外遊びの時間を多くとることで、部屋に戻ると落ち着いて好きな遊びをして過ごす時間も確保することができた。			
2 人間関係	6	30	5
友だちとの関わりが増える中で、ちょっとしたことからトラブルもあったが、落ち着いて思いを受け止め話を聞くことで、友だちの考えを認めるようになり、子ども同士で「ごめんなさい」と仲良く遊ぼうとする姿が見られるようになった。			
3 環境	6	30	5
子ども一人ひとりの好きな遊びを把握したり、自分で取り出したりできるように玩具などの位置を決め、自分の持ち物がわかるようにシールを貼ることで、片づけもスムーズに行いながら遊びを変えて楽しむことができた。			
4 言葉	7	34	4.9
子どもの話したい気持ちを大切に、丁寧に関わることで友だちの話にも耳を傾けるようになり、子ども同士の言葉のやりとりも増えた。表情やリアクションで反応することで話す楽しさも感じられたと思う。			
5 表現	6	30	5
子どもが好きだったり気に入っている歌やダンスも活動に取り入れることで、喜んで踊ったり体を揺らして歌うなど、体で表現する楽しさを感じられたと思う。			
第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育に関するねらい及び内容	159	581	3.7
1 健康	30	109	3.6
3歳児 自分の身の回りのことを一緒にしながらできるようすることで、子どもたち同士で声をかけながらしていけるようになってよかった。 4歳児 身の回りのことは一通りでできていたが、慣れてくると雑になりがちだったのでしっかり目を配り意識ができるように場面ごとに声掛けや援助が必要だと感じた。 5歳児 手洗い・うがいや汗をかいたときの始末、水分補給の大切さなど、健康に必要な習慣を知らせるようにしたことで子どもが自ら意識し判断して行う姿が見られた。			
2 人間関係	39	146	3.7
3歳児 代弁をすることで少しずつ友だちの意識が持てるようになり、思いに気付くことができた。 4歳児 集団や個で遊ぶ楽しさを味わえるように一人ひとりの興味・関心を大切に。その中で友だちへの気づきや思いやりが増えた。 5歳児 遊びの中で子どもの思いを聞くことで、自分の思いを伝えらるようになったが、それぞれしたい遊びが違うことがあったので、折り合いをつけたり同じ遊びをみんなで楽しめるような保育の準備や環境づくりが必要だったと思う。			
3 環境	36	127	3.5
3歳児 生き物の触り方やどのようにして育てるかその都度教えることで、自分たちで考えて触ったり、年下児にも教える姿が見られよかった。 4歳児 子どもが学ぼうとする環境づくりができなかった。他の保育教諭と話したり、共有する時間を設けなかったため、積極的にやりとりを大切にしていきたい。 5歳児 虫への興味が高く、散歩や野菜の観察などを通して自然にたくさん触れる機会を持つことができた。園の行事以外で地域の人や町内の施設などの関りがあまりできなかった。			

4 言葉	30	113	3.8
<p>3 歳児 言葉遣いや挨拶に気を付けて声をかけるようにした。言葉遣いがよくない子には正しい優しい言葉をかけ教えるようにした。</p> <p>4 歳児 子ども一人ひとりの会話を大切に。気持ちに余裕がなく言い方や伝え方がきつくなる時もあったので、心に余裕を持った保育をしていきたい。</p> <p>5 歳児 友だちとのやり取りの中で自分の言葉で伝えようとする様子を見守ることで、思いを相手に伝える力や友だちの思いを聞く力につながった。集中して話を聞く大切さを意識できるような伝え方が難しかった。</p>			
5 表現	24	86	3.6
<p>3 歳児 製作をしたり、歌ったり、踊ったりすることが大好きな子どもたちだったので、季節ごとの製作や好きな曲でダンスをしてみんなで楽しめるようにした。</p> <p>4 歳児 自信をもって自己表現ができる子は表現する楽しさを味わっているが、難しい子どももいる。表現には様々な種類があるのでその子の特徴を知り、言葉や行動を見逃さず褒めたり手助けができるようにしたい。</p> <p>5 歳児 子どもの興味にあわせた音楽を遊戯や歌に取り入れたことで楽しみながら体を動かして表現することができた。ブロックや廃品などで製作することが多かったが、それを保育に生かしたり発展させることができなかったと思う。</p>			

第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	28	107	3.8
1 満3歳児未満の園児の保育の実施における配慮事項	10	42	4.2
(1) 乳幼児期の園児の保育に関する配慮事項	6	22	3.7
病欠やその他の体調などをしっかり把握し、職員間で共有しながら対応することができた。			
(2) 満1歳児以上満3歳未満の園児の保育に関する配慮事項	4	20	5
朝の会時にその日の天候を確認した後全員で何をして遊ぶか話し合うようにすることで自分の考えを言える場となった。戸外では常に子どもの動きや位置、人数を把握することで安全に活動を行うことができた。			
2 幼保連携型認定こども園における教育及び保育の全般における配慮事項	18	65	3.6
<p>3 歳児 発達に個人差があるので、一人ひとりにあった援助をしていくようにした。</p> <p>4 歳児 子ども一人ひとりの性格や特性を知り理解したり、寄り添って安心して生活できるように個々を大切にしていきたい。</p> <p>5 歳児 生活リズムや時間の区切りに合わせた行動・約束事を守って欲しいという思いが強くなってしまい、個々に合わせた柔軟な対応や援助ができなかった。</p>			

領域別評価のまとめ【第3章】

第3章 健康及び安全	項目数	総数	平均
第2節 健康支援	9	34	3.8
1 健康状態や保育及び発達の状態の把握	3	11	3.7
園児の健康状態を観察し、何らかの疾病が疑われる場合には保護者に連絡し、受診を勧めるなど対応している。中には「様子を見ます」と受診せず、症状が落ち着いたら登園するケースもあるので、どのように受診を勧めたら良いのかが課題である。			
2 健康増進	2	8	4
健康診断を受けた後には結果を知らせ、必要に応じて受診を勧めるなど対応し、受診後は保護者と共通理解し生活できるようにしている。			
3 疾病等への対応	4	15	3.8
保育中に体調不良になった場合、様子を見る場所として保健室としての機能をもう少し充実できるようにしていきたい。			
第3節 食育の推進	6	21	3.5
1 食育の推進	6	21	3.5
食育の計画は立てているが実行力に欠けている部分があった。野菜の栽培やクッキングの体験を行ったり、実際に食材を見せ、五感で感じるにより食に対する興味を持たせることができたと思う。もっと深く興味や関心が持てるよう、保護者や地域関係者との連携を図り食に対する取り組みを行ったり、遊びを通しての食育活動を増やしていく。			
第4節 環境及び衛生管理並びに安全管理	7	24	3.4
1 環境及び衛生管理	2	7	3.5
水回りなどの掃除が行き届いていないので、衛生管理を丁寧に行い、清潔を保つよう全職員で心掛けたい。			
2 事故防止及び安全対策	5	17	3.4
不審者対応ができていないので、色々な場面を想定して行っていく必要があると思う。			

第5節 災害への備え	7	23	3.3
1 施設・設備等の安全確保	2	9	4.5
想定場面が少ないので、小学校まで避難するなど様々な場面を想定し、避難訓練を実施することが大切だと思う。			
2 災害発生時の対応体制及び避難への備え	3	9	3
災害が起きた際の保護者への引渡し等、実施できていないところがあるので、マニュアルをもっと詳しく作成する必要があると思う。			
3 地域の関係機関等との連携	2	5	2.5
地域との連携が取れていないので、地域と連携して訓練後の保護者への引渡しや非常食を食べてみるなど実施が必要だと思う。			

領域別評価のまとめ【第4章】

第4章 子育ての支援	18	50	2.8
第2節 子育ての支援全般に関わる事項	4	13	3.3
連絡帳や登降園時のコミュニケーション、ブログの発信等により日々の子どもの姿を保護者に伝えることができたと思う。コロナウイルス感染症が5類に移行し、保護者の参加行事も増えてきたが、コロナ禍前と比較するとまだ少ないと思われるので、参加機会を増やし子どもの成長に気付き子育ての喜びを感じられるようにする。			
第3節 幼保連携型認定こども園の園児の保護者に対する子育ての支援	9	25	2.8
<p>日常の保護者とのコミュニケーションだけでは不十分なところもあるため、保護者面談等を行い信頼関係を築いたり、保護者が参加・協力できるような活動を多く取り入れていけるようにする。</p> <p>特別な配慮を要する園児に対しては関係機関との連携が不十分なため、積極的に連携・協力体制を図り、個別支援を充実する。</p>			
第4節 地域における子育て家庭への保護者等に対する支援	5	12	2.4
一時保育の利用に関しては柔軟に対応している。また、乳児や未就園児に対しての子育て支援事業に今年度は参加者があり、様々な遊びの提供や園の情報等を提供することができたと思う。地域の実態等を把握したり、地域の人材を積極的に活用し、地域の子育ての支援を推進するとともに教育保育の中心的な役割を果たすよう努める。			

領域別評価のまとめ【第5章】

第5章 職員の資質向上	9	29	3.2
1 職員の資質向上に関する基本的事項	2	5	2.5
これまでしっかりとした自己評価ができていなかったため、次年度は毎日の振り返りの中でしっかりと自己評価を行い、子どもを肯定的に見ていき明日の保育につなげ、保育をもっと楽しくしていきたいと思う。			
2 施設長の責務	2	8	4
研修・講習の参加を促しているが全体的な計画を立てていなかったため、専門性の向上が図られるよう努めていきたい。			
3 職員の研修等	2	10	5
定期的な職員会議や園内研修を行い、今、現場で起きている課題等の共通理解を図っているが活かしていない所がある。職員同士が主体的に学び合える体制を整えていきたい。			
4 研修の実施体制等	3	6	2
様々な研修を受けてはいるがその後につながらないので研修後は全職員で共有するなどし、専門性の向上に努めていきたい。			